

福寿園だより

Vol. 89

令和4年4月10日発行



- ◆特別養護老人ホーム福寿園…………… 定員100名
(うちショートステイ15名)
- ◆ケアハウスさくら荘…………… 定員30名
- ◆福寿園デイサービスセンター…………… 定員42名
- ◆福寿園ヘルパーステーション…………… (うち認知型12名)
- ◆福寿園居宅介護支援センター
- ◆原町東地域包括支援センター

編集
発行

社会福祉法人 南相馬福祉会
福寿園広報委員会

〒975-0033 福島県南相馬市原町区高見町2-70
TEL(0244)25-2811
FAX(0244)25-2812
URL <http://minamisomafukushikai.or.jp>
MAIL fukujuen@chive.ocn.ne.jp

南相馬福祉会へ ようこそ!

ミャンマーからの介護職員紹介

これから南相馬福祉会で
一緒に働く7人です。
皆さん、どうぞよろしく
お願いいたします。



チョーミンタツ
万葉園



ザンスタウン
万葉園



イジンモー
福寿園



ウインサン
福寿園



マーラーウ
グループホーム
石神



ソートウ
梅の香



チョウカイン
ウィンアウン
梅の香

ハッピーデイ

(福寿園デイサービス)



ひな人形作りと さくら飾り

「出来るかな～」 「難しいなあ～」と、ご利用者同士で会話をしながら、かわいいひな人形が完成しました。

また、折り紙を使い、デイサービスセンターの壁に桜を満開に咲かせました。





ご利用中の ひとコマ

ご利用中は、皆さんそれぞれに好きな事(ぬり絵・問題解き・読書等)をして過ごしたり、親しいご利用者同士で交流を楽しまれる時間を持たれています。

要支援のご利用者は、マシンを使い、体力維持を積極的に行われています。



ひな人形飾り

浴室の入り口前にひな人形を飾りました。入浴に来たご利用者の皆さんが「いいな～」とご覧になり、また、人形を手にとって懐かしむ様子も見られました。

飾りつけは主に職員が行いしましたが、人形を飾る位置や人形が持つ役割などは、ご利用者の皆さんの方がはるかに詳しく、「さすが！」です。

古くから大切に受け継がれてきた日本の伝統は、ご利用者の皆さんに和やかな時間をもたらしてくれました。



応援職員派遣

新型コロナ感染施設への 応援職員派遣で感じた事

特別養護老人ホーム主任介護職員
細野 周也

福島県老協からの依頼を受け、新型コロナ感染症のクラスター発生施設へ応援職員として行ってきました。

感染区域外で日常支援等の対応を行いましたが、感染区域内では、対応職員が少ない中で、自身も感染するリスクを常に抱えながら、日常とは異なる状況の中で対応せざるを得ないということは、身体的にも精神的にも大変であると感じました。

福寿園では、手洗いや換気等の基本的な感染対策を行っておりますが、いつ感染症が施設内に持ち込まれてもおかしくない状況は変わらずにあります。施設内で感染症が発生する事も想定しながら、今後も感染対策を十分に行い、ご利用者、職員の安全な日常を守っていききたいと思います。

ケアハウス さくら荘

健康チェック

毎月2回、ケアハウスさくら荘では健康チェック（血圧・脈拍・体温・酸素飽和度の計測）を行います。また、月に1回体重を測定しています。3月22日(火)の健康チェックには、28名が参加されました。



こんにちは

原町東地域
包括支援センター
です!

当センターの担当は、栄町、旭町、青葉町、錦町、桜井町、日の出町、高見町、二見町、上町、西町、三島町、大町、東町、仲町、上渋佐、下渋佐、大甕地区、高平の各地区です。
主な業務として、介護申請や相談、各種サービスの紹介、一人暮らしの高齢者への見守り支援、認知症予防の取り組み、虐待への対応、要支援認定を受けた方への介護予防ケアマネジメントなどを行っています。
生活上でのお困り事がございましたら、センターまでご相談ください。

愛 * こんたくと!

ヘルパーステーション

自立生活支援・

重度化防止のための

見守りの援助

訪問介護におけるサービスには、身体介護と生活援助があります。生活援助とは、「掃除」「洗濯」「調理」などの日常生活の支援ですが、自立に向けて、ご利用者とヘルパーが一緒に行えば身体介護として認められることがあります。それが、「自立生活支援・重度化防止のための見守りの援助」です。

例えば、ご利用者の安全や疲労感の確認をして、一緒に手助けや声かけ、見守りながら調理や掃除をする。洗濯物を一緒に干したりたたんだりして自立を促すとともに、転倒予防のための見守り・声かけをする。ご利用者の「できない部分」を見るのではなく、「できる部分」に着目し、ヘルパーは全てに手を出してしまわず、必要に応じて「手を引く」ことも大事になります。

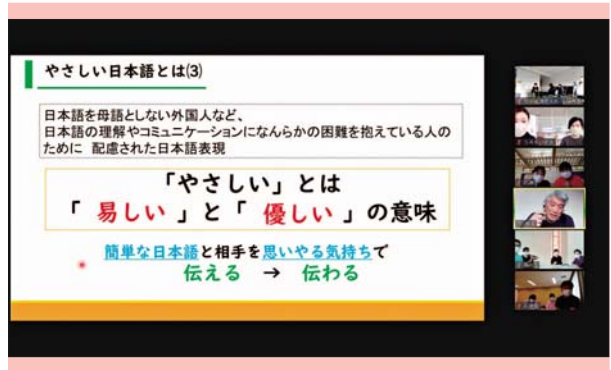
ヘルパーが家事代行をするのではなく、ご利用者の状況の変化と必要性に合わせて「一部介助・見守り・声かけ」を使い分けながら支援することで介助する部分が減ることも、自立支援や重度化防止に繋がっていきます。

『やさしい日本語』講座

外国人介護人材受け入れに向け、やさしい日本語講座（初級編）を、福寿園・万葉園・梅の香・石神の4拠点をオンラインでつなぎ、開催しました。講師は、南相馬市外国人活躍支援センター「SAKURA」の日本語教師であり、入門・やさしい日本語認定講師の荒義直氏です。お話はとても分かり易く、やさしい日本語を参加者同士で実践する時間もあり、楽しい講座となりました。

『やさしい日本語』とは、日本語を母語としない外国人など、日本語の理解やコミュニケーションに何らかの困難を抱えている人のために配慮された日本語表現です。ちなみに母国語とは自分の国の言葉で、母語とは、自分が生まれ育った場所で使ってきた言葉なのだそうです。やさしい日本語の『やさしい』には、『優しい』と『易しい』の意味があり、簡単な日本語と相手を思いやる気持ちがあれば伝わると学びました。母語を話す私たちが、相手に合わせる気持ちが一番大事とのことでした。

これから一緒に働くミャンマーの皆さんが安心できる職場となるよう努めてまいります。



編集後記



今回、『やさしい日本語講座』の記事を書くにあたり、『やさしい日本語』についてインターネットで調べると、出入国在留管理庁と文化庁から出されている、在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（2020年8月）という資料に出会いました。その中であつたコラム、『やさしい日本語の歴史』に目が留まりました。

『やさしい日本語』の歴史は、1995年の阪神・淡路大震災に遡り、この時に日本人の死傷者は約1%だったのに対し、外国人の死傷者は2%以上に達し、外国人に対して迅速に災害などの情報伝達を行う手段としての取り組みが始まり、新潟県中越地震、東日本大震災を経て、災害時のやさしい日本語での発信が全国に広がりました。という内容でした。災害時に迅速に避難できるよう、メディアからの情報発信も近年変わってきています。思いやりの気持ちを持って相手に伝えること、伝えることの大切さを実感します。

『やさしい日本語』を活用することは、誰に対しても心掛けていくべきことなのですね。